【東日本大震災（岩手県山田町）救護活動報告】

薬剤部　山田　邦義

4 月 4 日午前 7 時ロジスティックセンターを出発し、伊丹空港で災害対策要員と合流し、医師 2 名・看護師 3 名・主事 2 名・災対要員 2 名計 9 名のチームができ、本部のある陸中海岸青少年の家へ向かった。道中、釜石に入ると辺りの景色は一変した。テレビでは見ていたが、目の当たりにすると言葉が出てこなかった。

本部に到着し第 6 班からの引き継ぎを受けた後、最初に確認したのはやはり薬品の種類と在庫量であった。主事としての立場ではあったが、薬剤師が実際の医療班に入るのは自分の記憶では初めてである。薬剤師としてチーム内で何が出来るか、ニーズは何なのかを出発前から考えた。医療班の訓練に参加したことも無く不安だらけであった。とにかく出来ることをひとつずつこなし迷惑だけは掛けないでおこうという結論しかでなかった。

青少年の家での診療開始。カルテ出しに始まり調剤・薬の説明をこなす。当然一人ではこなすことは出来ず他のスタッフの力を借りながらこなした。巡回診療では、一斑で診察を行っていたが、患者数が多く途中から 2 班体制となった。薬は一セットしか無く、保育園の避難所の方は文句も言わず 30 分あまり待っていただけた。午後 6 時から山田町に入っている医療チームが集まり医療ミーティングが毎日行われている。互いに情報を共有し抜ける所が無いようにと行われていた。また、山田町薬剤師会が一括して薬剤を医療チームに供給していただけたので、薬剤不足にならず投薬できたことに感謝している。システム作りが大変上手くいっていると感じた。4 カ所の診療を毎日行いチーム内・患者さんから感じたニーズや、医師からは聞いたことが無い名前の薬が何なのか、持ち合わせの同効薬の情報を提供すること、看護師にとっては薬剤師がいることで問診・血圧測定・避難所にいる方の心のケア等の看護師業務に時間をとることができたのではないかと思う。また、患者さんはいつもと色・形・名前が異なる薬が同じ効果を持つ薬であることを説明する事により安心していただけたのではないかと思う。

全てのニーズに応えられる事は出来なかったと思うが、今後の課題として考えていきたい。

帰阪前日夜中に震度6の余震があり怖い思いをした。皆で手分けし避難所の人々に声をかけて回り身体的・精神的異常の無いことを確認し、医療班から防災班に変化することを経験した。避難所の皆様に見送られ大阪への途についた

理学療法士　姫野　吉徳

私は、平成23年4月4日から5日間、岩手県下閉伊郡山田町に第7班として参加しました。参加するにあたり、どのような役回りで何が出来るのか不安でありましたが、主事の役割を主としながら、ニーズがあれば理学療法士としても働けるような心構えで望みました。

今回の派遣で最も印象に残ったのは、「チーム」として働くことの大切さでした。大きな組織では、個々の仕事をこなす事で精一杯になり、チームワークが大事であることは知っていながら、職種間の連携の希薄さは否めないように思います。班員は9名という少人数のチームでありましたが、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、事務員と職種がそろっており、同行した二人の医師は、普段から理学療法を理解してくれている存在でありました。また看護師・薬剤師も既知の仲間でしたので、仕事は初めからスムーズに入り込むことが出来ました。そして医療職としての仕事以外は、すべて本部災害対策要員の2人が担当して頂き、この2人の機動力と情報がチーム全体の方向性を左右したと言っても過言ではありません。

救護所での受診者の多くは投薬により解決出来ましたが、なかには瓦礫の撤去作業で腰痛になった方、坂の上り下りが頻回にあり膝に痛みを訴えた女性、避難生活に入ってから一度も外に出たことがなかったお年寄りなど、理学療法の適応の方もおられました。もし同行した医師が理学療法を知らない医師であったなら、今回のよ

うな理学療法士としての出番は無かったと思います。医師により理学療法が処方されれば、その場で問題解決が出来る治療技術と知識が必要とされるため、普段の臨床にはない緊張感もありました。

この派遣中の食事とミーティングは良い経験になりました。食事の時間は貴重なリラックスタイムでありインスタント食品であんなに盛り上がったのも初めてでした。また避難所で当日接した対象者の問題点はその日のうちに共有し、全員で明日の方針を立案する。2、3日でしたがあのミーティングは大組織ではあり得ない時間であったし、日々の臨床においてもこんな場面が欲しいと思いました。

この度の経験を通して医療チームとして機能するためには、まずチームとしての方向性が明確に示されていること。次にお互いの仕事を知り、個々が役割を確実に実行できること。そして環境の変化に即応できる柔軟性をチームとして持っていること。これらの条件が必要であることを実感できました。

最後に私たちは被災された方への援助をとおして多くのことを学ぶことが出来ました。一日も早い復興を祈念して稿を終えたいと思います。

受付業務の様子

避難所の様子

薬剤師会薬局